

Subject : **Japanese**Production of Courseware  
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 18 : **とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases, and Clauses)**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये


**Development Team****Principal Investigator:** **Prof. Anita Khanna**  
Jawaharlal Nehru University, New Delhi**Paper Coordinator:** **Prof. Prashant Pardeshi**  
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Writer:** **Prof. Hisashi Noda**  
The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)**Content Reviewer:** **Prof. Shingo Imai**  
University of Tsukuba

Japanese

Japanese Linguistics

とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)
Module ID	JPN-P02-M18
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**  
पाठशाला  
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

とりたて (Toritate: Focusing and Defocusing of Words, Phrases and Clauses)

## とりたて

もくてき もくてき おも じょし  
**目的**：このモジュールの**目的**は、主にとりたて助詞の「も」や「だけ」「さえ」などで表される日本語の「とりたて」について述べることである。

### 1. 「とりたて」とは

「とりたて」とは、類似を表す「も」や限定を表す「だけ」のようなとりたて表現を使って、文中の語句を焦点化したり非焦点化したりすることである。英語でも too や only のように「とりたて」を表す表現があるが、日本語ではとりたて表現が多く、よく使われる。

たとえば、(1) はとりたてが行われていない文である。(1) は、「思い出す」の対象が「楽しかったこと」だということを表しているだけである。それ以上のこと、つまり、たとえば「悲しかったことは思い出すな」ということまでは表していない。

(1) 楽しかったことを思い出してください。

それに対して、(2) は (1) の「楽しかったこと」に「だけ」という限定を表すとりたて助詞が付いている。(2) は、「だけ」によって「思い出す」の対象が「楽しかったこと」に限られることを表している。それは、「悲しかったことは思い出すな」ということまで表していると言える。

(2) 楽しかったことだけを思い出してください。

## 2. 「とりたて」を表す形式

日本語では、「とりたて」は主にとりたて助詞によって表される。とりたて助詞の中には (3) の「だけ」のように名詞の後、格助詞の前に付くことがあるものもあるが、多くは (4) の「も」のように格助詞の後に付く。

(3) 山田さんだけが彼女のメールアドレスを知っていた。

(4) 田中さんにも彼女のメールアドレスを教えた。

とりたて助詞が格助詞の後に付くと、とりたて助詞の前の格助詞は削除されることがある。とりたて助詞の前の格助詞「が」は、(5) のように削除される。とりたて助詞

まえ かくじょし さくじょ おお じょし  
 の前の格助詞「を」も、(6)のように削除されることが多い。しかし、とりたて助詞の

まえ かくじょし さくじょ おお  
 前の格助詞「に」や「で」は、(7)のように、削除されないことが多い。

しやちよう じじつ し  
 (5) 社長はさえその事実を知らなかった。

つく  
 (6) オムレツをぐらい作れます。

ちか でんしゃ えき  
 (7) この近くにも電車の駅があります。

じょし ふくし あらわ  
 「とりたて」は、とりたて助詞のほかに、とりたて副詞で表されることもある。(8)

たん とく ふくし  
 の「単に」や、(9)の「特に」のような副詞である。

ふく たん やす う  
 (8) この服は単に安いから売れているのではない。

きよく とく うつく  
 (9) この曲は特にメロディーが美しい。

じょし ごく あと っ ふくし きほんてき  
 とりたて助詞はとりたてる語句の後に付くが、とりたて副詞は基本的にとりたてる

ごく まえ お ふくし たん やす  
 語句の前に置かれる。(8)のとりたて副詞「単に」は、「安いから」をとりたてている。

ふくし とく  
 (9)のとりたて副詞「特に」は、「メロディー」をとりたてている。

### 3. とりたて助詞が表す意味

とりたて助詞が表す意味は、大きく分けると、(10) から (15) の 6 つになる。それぞれ

の意味を表す代表的なとりたて助詞とともに示す。

(10) 類似：「も」

(11) 対比：「は」

(12) 限定：「だけ」「しか」「ばかり」

(13) 例示：「でも」「なんか」

(14) 極端：「さえ」「まで」「でも」

(15) 普通：「なんて」「ぐらい」

### 4. 「類似」を表すとりたて助詞

「類似」を表すとりたて助詞は、とりたてられたものだけでなく、他のものでも同

じようにその事態が成り立つことを表す。たとえば、(16) では、2 番目の文の述語は

最初の文の述語と同じ「医者だ」である。このような場合、(16) のように、2 番目の文

しゅご あに るいじ あらわ じょし つ  
の主語「兄は」には類似を表すとりたて助詞「も」を付けなければならない。(17) の  
つ ぶん ふしぜん  
ように、「も」を付けない文は不自然である。

あね いしや あに いしや  
(16) 姉は医者だ。兄も医者だ。

あね いしや あに いしや  
(17) 姉は医者だ。\*兄は医者だ。

ひ ぶんぼうぎ ふ しぜん しめ  
(\*のマークは非文法的または不自然であることを示す。)

## 5. 「対比」を表すとりたて助詞

たいひ あらわ じょし  
「対比」を表すとりたて助詞は、4. の「類似」のとりたて助詞とは逆の意味にな  
る。とりたてられたものではその事態が成り立つが、他のものではその事態が成り立た  
ないことを表す。たとえば、(18) では、2 番目の文の述語は「飲まなかった」である  
あらわ ほんめ ぶん じゅつご の  
が、これは最初の文の述語「飲んだ」と対比的である。このような場合、(18) のように、  
さいしよ ぶん ほんめ ぶん たいひ あらわ じょし  
最初の文の「ジュースを」と 2 番目の文の「ビールを」には対比を表すとりたて助詞  
つ ぶん ふしぜん  
「は」を付けなければならない。(19) のように、「は」を付けない文は不自然である。

わたし の の  
(18) 私はジュースは飲んだが、ビールは飲まなかった。

わたし の の  
(19) \*私はジュースを飲んだが、ビールを飲まなかった。

6. 「限定」を表すとりたて助詞

「限定」を表すとりたて助詞は、それに該当するものはとりたてられたものだけで

あり、他のものは該当しないことを表す。たとえば、(20) も (21) も「作っているのはマンゴーに限られ、それ以外は作っていない」という意味を表している。

(20) この農場ではマンゴーだけ作っている。

(21) この農場ではマンゴーしか作っていない。

「だけ」と「しか」の違いは、何に重点をおいて述べているかという点である。

「だけ」が使われている (20) は、「作っているのはマンゴーに限られる」ことに重点をおいて述べられている。一方、「しか」が使われている (21) は、「マンゴー以外は作っていない」ことに重点をおいて述べられている。

そのため、(20) の後には (22) のような文が続くほうが (23) のような文が続くより自然である。反対に、(21) の後には (23) のような文が続くほうが (22) のような文が続くより自然である。



(22) だから、この農場のうじょうの人ひとたちはマンゴーさいばいの栽培しのことをよく知っている。

(23) だから、この農場のうじょうの人ひとたちは他の果物ほか くだものの栽培さいばいのことを知らないし。

「ばかり」も限定を表すが、(24)のように、何回も起きる事態なんかい お じたいや長い時間なが続く事態じかんつづ じたいを表す文あらわ ぶんで使われるつか。

(24) 彼は毎日ゲームかれ まいにちばかりばかりしている。

## 7. 「例示」を表すとりたて助詞

「例示」を表すとりたて助詞は、6. の「限定」を表すとりたて助詞とは逆の意味になる。とりたてられたものだけでなく、それと似た他のものでもよいことを表す。

たとえば、「でも」が使われている (25) では、飲む対象の たいしょうはお茶ちゃに限かぎられないことを表しているあらわ。つまり、コーヒーこうちゃでも紅茶れいじでもよいということである。例示を表す「で」

は、意志い しや希望きぼうを表す文あらわ ぶんや、申し出もう でや誘いさそ ぶんをする文つかでよく使われる。

(25) お茶ちゃでもの飲もう。

「なんか」も例示を表すが、(25)のように、相手に提案をする文でよく使われる。

(26) この色いろなんか、どうでしょうか。

### 8. 「極端」を表すとりたて助詞

「極端」を表すとりたて助詞は、とりたてられるものによってその事態が成り立つのは珍しいということを表す。たとえば、(27)の「自分が優勝すると思った」のは珍しいということを表している。「極端」を表すとりたて助詞は、「優勝すると思った」「ベスト4に入ると思った」「ベスト8に入ると思った」のように、珍しいことから珍しくないことまで序列があるときに使われる。

(27) 試合前は自分が優勝するとさえ思った。

「まで」も、(28)のように、極端を表す。「まで」は、(29)のように、基本的に否定の文では使えない。その点が(30)のように否定文でも使える「さえ」とは違う。

(28) 彼はアイスクリームまで自分で作る。

(29) \*彼はゆで卵まで自分で作れない。

(30) 彼はゆで卵 さえ自分で作れない。

「でも」も、(31)のように、極端を表す。「でも」は、元来「であっても」という

仮定を表す形式である。(31)は、「その人が医者であっても、その人はこんな病気は知らない」という意味を表す。そのため、(32)のように、基本的に過去に起きたできごとを表す文では使えない。

(31) 医者でもこんな病気は知らない。

(32) \*大学院にでも行った。

## 9. 「普通」を表すとりたて助詞

「普通」を表すとりたて助詞は、8.の「極端」を表すとりたて助詞とは逆の

意味になる。とりたてられるものによってその事態が成り立つのは珍しくなく、普通

だということを表す。たとえば、(33)の「3キロのジョギングを毎日している」とい

うのは普通だということを表している。「普通」を表すとりたて助詞は、「3キロの

ジョギングを毎日まいにちしている」「10 キロのランニングを毎日まいにちしている」「40 キロのマラソンを毎日まいにちしている」のように、普通ふつうのことから普通ふつうではないことまで序列じょれつがあるときに使つかわれる。

(33) 3キロのジョギングなんて毎日まいにちしている。

「ぐらい」も、(34) のように、普通ふつうを表す。「ぐらい」は、(35) のように、基本きほんてき的に否定ひていの文では使つかえない。その点てんが (36) のように否定文ひていぶんでも使つかえる「なんて」とは違ちがう。

(34) ビリヤニぐらいすぐ作つくれる。

(35) \*ダムぐらいすぐ作つくれない。

(36) ダムなんてすぐ作つくれない。

## 10. とりたて助詞じょしがとりたてる語句ごく

とりたて助詞じょしは、名詞めいしや、名詞めいしに格助詞かくじょしが付いた成分つをとりたてる。それ以外いがいにも、

副詞ふくし、従属節じゅうぞくせつ、述語じゅつごをとりたてることがある。

(37) では、対比を表すとりたて助詞「は」が副詞「はっきりと」をとりたてている。

(37) 山田さんはその質問にははっきりとは答えなかった。

とりたて助詞は、どんな副詞でもとりたてられるわけではない。(38) のようなモダリ

ティを表す副詞や、(39) のような程度を表す副詞をとりたてることができない。

(38) \*たぶんだけ明日は雨が降る。

(39) \*その公園はとてもまで広がった。

(40) では、限定を表すとりたて助詞「こそ」が理由を表す従属節「個性がないから」をとりたてている。

(40) このバッグは個性がないからこそ、みんなに好かれるのだ。

とりたて助詞は、どんな従属節でもとりたてられるわけではない。(41) のように、

理由を表す従属節「～ので」をとりたてることができない。

(41) \*疲れたのでだけ, 早く家に帰りたい。

(42) では, 極端を表すとりたて助詞「も」が述語「驚かなかった」をとりたてて  
いる。

(42) そんなことには驚きもしなかった。

とりたて助詞が動詞をとりたてるときは, (42) のように, 述語の語幹を名詞的な形式  
(たとえば「驚き」) に変えて, それにとりたて助詞を付ける。そして, その後に  
代動詞「する」を入れて, その語尾を活用させる。動詞が「～ている」「～てくれる」  
など「～て」を含む形の場合は, (43) のように「～て」の後にとりたて助詞を付ける。

(43) 宗教についてのエッセーはまだ書き始めてさえいない。

キーワード:

とりたて助詞    とりたて副詞    類似    対比    限定    例示    極端    普通

\*\*\*\*\*